

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 1/3

(I)

問1	(A) (1)	(B) (2)
	(C) (3)	

問2	ローマ=カトリック教会は、聖職者のみが信者を救うことができるとしていたが、
	聖職者の言葉だけでは信者を救うことができないとしてカトリック教会こそが「異端者」で
	あるとし、聖書を通じて信者が直接福音を信仰できるように、聖書をラテン語から地域の言
	語に翻訳した。(126字)

問3	教皇のグレゴリウス7世は、教会刷新運動を主導したクリュニー修道院の影響を受
	け、11世紀に神聖ローマ皇帝による聖職叙任権を聖職売買であると批判し、叙任権を教会の
	手に取りもどそうとした。カタリ派が教会の権威主義を批判する民衆運動を起こすと、13世
	紀に教皇インノケンティウス3世によって異端として弾圧された。一方、信者の施しに頼っ
	て清貧を求めた托鉢修道会のフランチェスコ修道会やドミニコ修道会は認可され、異端審問
	を指揮した。(207字)

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 2/3

(II)

問1	永楽帝は、靖難の役による混乱を收拾して国内を安定させ、モンゴルやベトナムに遠征を行う一方で海禁政策をとり、鄭和を南海遠征に派遣して朝貢を促した。遠征の艦隊は東南アジアやインド洋沿岸地域、アフリカ東岸に到達して明の勢威を示し、これらの地域からの使節が来訪するようになった。キリンには中国の聖獣麒麟のイメージが重ねられており、異国からの使者が麒麟を献上する行為は、永楽帝が有徳の皇帝として善政を行っていることを示している。(209字)

問2	北イタリア諸都市は、絹織物や香辛料などを扱うイスラーム世界との東方貿易によって繁栄し、都市共和国として自治権を獲得していった。またイスラーム世界やビザンツ帝国からは、先進的な学術や古典古代の文化が流入した。これらは、ルネサンスと呼ばれる古典文化の復興運動が興る背景となった。毛織物業や金融業などで繁栄したメディチ家は、15世紀頃から学問・芸術を保護し、ロレンツォの時代にフィレンツェはイタリア＝ルネサンスの中心地となった。(210字)

世界史 大阪大学 文学部 (前期) 3/3

(Ⅲ)

問	預言者ムハンマドの後継者としてカリフが選出され、その四人目のアリーが暗殺さ
れてウマイヤ朝が成立すると、アリーとその子孫のみを正統とするシーア派が形成された。	
アッバース朝以降スンナ派が多数派となったが、イランではシーア派が大勢を占めた。サウ	
ジアラビアではムハンマド時代への回帰を目指すワッハーブ派が多数派となった。(156字)	